

横浜市立大学の“今”をお届けする

YCU 通信

特集

横浜市立大学病院 150周年 150th anniversary



1872年当時の病院

横浜市立大学卒業生担当
Facebook ページ YCU.alumni

Facebook 横浜市立大学卒業生担当 検索



LinkedIn
横浜市立大学カレッジページ

LinkedIn 横浜市立大学 検索



特集

横浜市立大学病院 150周年

横浜市立大学附属病院および横浜市立大学附属市民総合医療センターの歴史は1871年に設立した仮病院にさかのぼります。2021年に仮病院の設立から150周年を迎えました。今も昔も地域に必要とされ、市民に親しまれている大学病院の歴史を紹介します。



150th Anniversary

横浜開港から仮病院の設立まで

1859年の開港後、横浜には次第に外国人が渡来するようになり、西洋医学を取り入れた医療施設が求められるようになりました。その後、いくつかの病院の設立と閉鎖が繰り返される中、日本最初の軍陣病院と言われる横浜軍陣病院が1868年に設立されたものの、1869年に東京に移転してしまいます。この病院では本格的な外科手術などが行われていたため、診療を受けその必要性を感じた地域住民からは閉鎖後、新病院を求める声があがりました。この声をいち早く取り上げたのが丸善雄松堂株式会社(以下、丸善という。)創業者の早矢仕有的です。早矢仕は有志から寄附を集め、1871年4月、現在の横浜市中区に仮病院を設立しました。

仮病院の設立後

不幸にも近隣からの失火に遭い、仮病院は半年ほどで焼失しました。しかし、病院の必要性は確かなものであり、1872年7月に横浜病院と称して再度開設しました。その後、移転や十全医院などへの改称を繰り返し、1944年には医学部医学科の前身である横浜市立医学専門学校の設立に伴い横浜市立医学専門学校附属十全病院となりました。

大学病院は幾多の変遷を経て現在の附属2病院体制となっていますが、その間に横浜市民の命を守る「最後の砦」としての使命は変わることなく果たし続けてきました。



1872年 横浜病院規則

- 〈特集記事の出典〉.....
- 草創のとき 横浜市立大学医学部創立史 1984年 俱進会
 - 横浜と医学の歴史 1997年 横浜市立大学一般教育委員会
 - ハマの医学校物語(改訂版) 2016年 三杉和章
 - 横浜市立大学医学部創立70周年記念誌かもめ70 2016年 横浜市立大学医学部医学科同窓会俱進会
 - 横浜市立大学病院150周年記念誌 2021年 横浜市立大学医学部医学科同窓会俱進会

感染症と大学病院

2020年2月、ダイヤモンドプリンセス号の重症患者の受け入れに始まり、新型コロナウイルス感染症に対して、附属2病院は国内での流行初期から積極的に患者の治療にあたるとともに、横浜市の感染症対策行政においても、患者搬送の調整など、様々な場面で対応をしてきました。

仮病院が設立された1870年代にも感染症の流行があり、その時も病院は感染症患者の治療や防疫において、重要な役割を担いました。



ECMOを装着したまま患者を搬送するエクモカー

感染症と闘ったシモンズ博士

横浜は開港後、国内外から人が集まる場所となり、急速な人口増加などにより感染症が多発していました。感染症を食い止めるため活躍したのがデュアン・B・シモンズ博士です。シモンズ博士は1859年に宣教師兼医師としてアメリカから来日し、その後、大学病院の発祥となる仮病院設立(1871年)から約10年にわたり診療に従事しました。その間に天然痘とコレラの流行があり、診療と同時に種痘(天然痘のワクチン接種)の励行や横浜市内の医師を集めてコレラ対策の講義を開くなど感染症の対策に尽力しました。

また、天然痘が流行した際、当時の病院(県立の十全医院)の敷地内に附属病舎を新築して患者を隔離すると共に、種痘済の人には証明書を発行しました。これは日本で最初のワクチン接種証明書の発行と言われています。

他にも公衆衛生制度の確立を提案したり、病理解剖を行い開業医や有志への医学教育を行うなど、その貢献は多岐にわたりました。

現在、附属市民総合医療センターにはシモンズ博士の功績を称える石碑が設置されています。



種痘証



シモンズ博士



シモンズ博士記念碑
設置場所:横浜市立大学附属市民総合医療センター 1階 メディカルモール

Column

早矢仕有的はハヤシライスの生みの親

仮病院の設立者の一人である早矢仕有的(はやし・ゆうてき)は、渋沢栄一と同時期に活躍した実業家の一人です。元々は医師でしたが、西洋の事情に詳しい福沢諭吉の教えに影響を受け、横浜で輸入書籍を扱う書店(後の丸善)を創業しました。また薬局の経営や銀行の設立もしています。

商才のあった早矢仕ですが、丸善百年史によると、台所にあり合わせた肉や野菜をゴツタ煮にして、ご飯を添えた料理を友人に度々振る舞っていたと一節があります。それを人々は「早矢仕さんのライス」と呼び評判になり、ついには「ハヤシライス」の名で街のレストランのメニューになったようです。

語源については諸説ありますが、先述のエピソードより、早矢仕の誕生日である9月8日はハヤシの日として日本記念日協会の認定を受けています。



早矢仕 有的

ハヤシライス
撮影場所:丸善日本橋店3階 MARUZEN Café

大学病院のあゆみ



横浜市立大学のあゆみ

横浜開港



明治中期の病院

関東大震災



1924年 大震災後の臨時病院(仮建築)

第二次世界大戦の終結



1965年頃 金沢八景キャンパス



1987年 福浦キャンパス



周年ロゴマーク

医学部・附属病院再整備事業

これまで、市民の健康と命を支える最後の砦として、医療人材の育成・輩出や高度で先進的な医療の提供など、様々な役割を果たしてきました。

しかし、建物・施設の竣工から約30年が経過し、病院の老朽化や医学部の定員増による居室不足などの問題が生じています。こうした課題の抜本的な解決、そして医療を取り巻く環境の変化へ適切に対応するため、2030年代に医学部と附属2病院を一箇所に集約する再整備の検討を現在進めています。

再整備に向けては学内の検討委員会が発足し、2021年9月に「最高の医療・医学研究・人材育成拠点へ～横浜の丘からみらいへ発信し続ける大学～」という全体方針(ビジョン)を策定しました。

引き続き、市民の健康と命を支える存在として大学病院はあり続けます。



福浦キャンパス



附属病院



附属市民総合医療センター

YCU100募金へのご協力をお願い

横浜市立大学は2028年に創立100周年を迎えます。そして大学病院は150周年を迎え、さらなる飛躍のために医学部・附属病院再整備事業を進めてまいります。大学創立100周年に向けた記念事業プロジェクトを推進するため、90周年の2018年からYCU100募金を開始しました。

すでに卒業生をはじめ多くの皆様よりご支援をいただいておりますが、この度、医学部・病院再整備プロジェクトを新たに寄附メニューに加えました。

世界で活躍する優れた人材の育成や教育・医療環境を整備するため、卒業生の皆様のより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

YCU100募金 4つの記念事業プロジェクト

- ①ビジネス人材育成・留学支援
- ②新たな研究創生
- ③学生生活・環境改善
- ④医学部・病院再整備

- 詳しくは大学Webサイト、またはリーフレットをご覧ください。
- 一口あたりの金額は決めておりません。
- インターネットからもお申込みいただけます。



YCU100募金 Webサイト



問い合わせ先 横浜市立大学基金担当

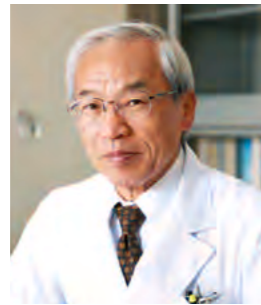
TEL:045-787-2447
E-mail:kifu@yokohama-cu.ac.jp

同窓会紹介

大学病院と関係の深い2つの同窓会を紹介します。

倶進会

(横浜市立大学医学部
医学科同窓会)



会長 遠山 慎一
(1969年医学部医学科卒)

倶進会は、1949年卒業の横浜市立医学専門学校1期生から2021年で72期生まで続く卒業生を中心に、学生や附属2病院の診療従事者などを含む約6,100名を有する同窓会です。

会員の多くは大学近隣の病院勤務医や開業医として地域医療を支えています。勤務地は、神奈川県内73%、東京都内12%、その他15%となっており、神奈川県内の会員は、76%が勤務医、24%が開業医です。

会員の相互扶助を目的として、会報「倶進会たより」の発

行、学生・若手医師への海外留学支援、会員病院長会議等の情報交換会、学生への白衣授与など多くの事業を行っています。

2016年には医学部創立70周年の記念事業として医学部発祥之地記念碑を建立し、また2021年11月には横浜市立大学病院150周年記念誌を発行しました。

倶進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めてまいります。



医学部発祥之地記念碑(横浜市南区総合庁舎の敷地内)

横浜市立大学

「看護」 交流会



会長 前澤 美佳
(2017年医学部看護学科卒)

現在900名を超える卒業生・学生が加入しており、会員相互の親睦や卒業生・学生のキャリア発達支援を目的とし活動しています。

昨今は新型コロナウイルス感染症の流行のためオンラインなどを利用して、学生が卒業生に学業や就職について気軽に相談できるオフィスアワーをはじめ、卒業生の看護実践能力を目的としたセミナーを開催し、皆様にご好評をいただいております。

大学病院は150周年を迎えましたが、医学部看護学科も1998年に横浜市立十全看護婦養成所として創設されて以来、長きに渡り横浜市をはじめ全国に多くの人材を輩出し、医療の発展を担ってまいりました。

今後も本交流会では、様々なフィールドで活躍されている会員の皆様をバックアップできるよう活動を推進していきます。



卒業生対象親睦会「ホームカミングデイ」

東京 2020 を振り返って

新型コロナウイルスの影響により1年延期し、2021年夏に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。開催に関わった2名の卒業生・学生から、卒業生担当に情報をお寄せいただいたので紹介します。



聖火ランナー

市岡 秀昭さん(1966年商学部卒)

[陸上競技部OBOG会の鷗走会会長]

卒業後も陸上競技を続け、国体には7回出場し、100m10秒7、200m21秒6の記録を持ち、1968年のメキシコオリンピックには最終選考会(全日本陸上競技選手権)で残念ながら200m決勝で2位となり、選手として出場することができませんでした。

選手としての夢は叶いませんでしたが、今回、聖火リレーランナーとして、東京都の165人の募集に16,910人の応募の中から選ばれ、オリンピックにかかわることができ、忘れられない素晴らしい思い出となりました。



放送センターでインターン

勝又 鈴菜さん(国際教養学部3年)

国際交流に興味があり、国内でできるものを探していた1年生の夏にオリンピックでのインターンシップを知り、応募しました。配属先が放送センターということで、応募の後、選考を兼ねたカメラの使い方などの研修会に参加しました。

グランドホッケー会場のカメラクルーの一員として主にマイクを担当することになり、7月下旬から8月上旬にかけて、競技の開催期間中は毎日会場に向かいました。

スタッフのリーダーが外国の方だったり、クルー内にも外国の方がいたりして、現場は正に国際交流そのもの。様々な方と協力してオリンピック競技を世界に向けて配信するという大きなことを成し遂げたことは、私にとって特別な経験となりました。

この経験から、英語を使って積極的に外国の方と話してみたい気持ちや就職後も国際交流にかかわってみたいという気持ちがより強くなりました。



税制上の優遇措置について

個人の場合 横浜市立大学へのご寄附には税法上の優遇措置が適用されます。後日お送りする寄附金領収書を控除証明書として確定申告書に添付し、所轄税務署へご提出ください。

① 所得税

● 所得控除

寄附金額から2,000円を引いた額を当該年の所得金額から控除できます。

● 税額控除（「YCU修学支援基金」・「YCU研究支援基金」のみ対象）*

寄附金額から2,000円引いた額に40%を乗じた額を、所得税額から控除できます。税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方にとって所得控除と比較して減税効果が大きくなります。

※確定申告の際に「所得控除」と「税額控除」のいずれか一方の有利な制度をお選びいただけます。

② 住民税

寄附をした翌年1月1日時点で神奈川県または横浜市にお住まいの方は、寄附の翌年の個人住民税の控除を受けることができます。

$$\text{住民税控除額} = (\text{寄附金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}) \times \text{控除率}^{\ast 2}$$

※1 その年の総所得金額等の30%が上限

※2 横浜市以外の神奈川県市町村にお住まいの方は2%または4%、横浜市にお住まいの方は10%です。

法人の場合 法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

● 法人からのご寄附について

会社等法人からのご寄附については「法人用寄附申込書」をお送りいたしますので、お手数ですが基金担当までご連絡願います。

優遇措置を受ける手続き

- 確定申告の際に、本学が発行する「寄附金領収書」を添えて税務署に申告してください。（住民税の寄附金控除のみを受ける場合は、市区町村に申告してください。）
- 「寄附金領収書」は、入金方法により到着までに10日から3週間程度かかる場合がございますので、ご容赦ください。

税制上の優遇について
詳しくはこちら



広告

シナネンホールディングスグループは変わります。脱炭素社会の実現に向けて、エネルギーと住まいと暮らしのサービスですべてのお客様に快適な生活をお届けできるよう新たな世界に挑戦してまいります。

Challenging New Worlds
with Big Sky-thinking.

大胆な発想で、
新しい世界への挑戦。

 **シナネンホールディングス**
SINANEN

〒108-6306 東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館6階
TEL:03-6478-7800 (代表) <https://sinanengroup.co.jp>
代表取締役社長 山崎正毅 (1979年 商学部卒)



ミライフ西日本株式会社
日高都市ガス株式会社
シナネンモビリティPLUS株式会社
株式会社ミノス
シナネンファシリティーズ株式会社

ミライフ株式会社
シナネン株式会社
シナネンエコワーク株式会社
タカラビルメン株式会社

ミライフ東日本株式会社
シナネンサイクル株式会社
株式会社シナネンゼオミック
株式会社インデス

メールアドレス登録と住所変更連絡のお願い

メールアドレスをご登録いただくと、住所や勤務先変更が大学Webサイトで手続きできるようになります。ご登録をよろしくお願いいたします。なお、住所変更については、卒業生担当へのメールまたは電話でも受け付けております。

ご登録はこちらから→



バックナンバー

YCU通信のバックナンバーはこちらから
ご覧になれます。



横浜市立大学 卒業生担当

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL : 045-787-2026

E-mail : obog@yokohama-cu.ac.jp